

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 甲斐大騎

所属: 大分県立臼杵支援学校

記録日: 2017年2月28日

キーワード: ネット検索の活用による生活の質の向上

【対象児の情報】

・学年 中学部 3 年

・障害名 知的障がい、アペール症候群

障害と困難の内容

アペール症候群(先天性の遺伝子疾患)を併せ持っており、手指などに変形がみられ、指先を使う細かい作業には時間がかかる。

国語や数学については小学 4 年生程度の学習を主に行っている。

小学校時代の経験などから、自己肯定感が低く、様々な活動に対して受け身なことが多い。

【活動目的】

当初のねらい

- ・間違えたり、失敗したりする可能性があることは「めんどくさい」と言って避けることが多い。
- ・授業の空き時間や昼休みは机に座ってじっとしていることが多く、自分からしたいことを見つけたり、しなければならないことに取りかかったりすることはほとんどない。
- ・一方で、あこがれの先輩ができたり、おしゃれに興味を持ったり、現場実習を経て働く意欲が高まってきたりと、様々な場面で「変わろう」という気持ちが芽生えてきている。

そこで、「変わりたい」「何かしたい」と思い立ったときに、他人との関わり(尋ねる、頼るなど)を経由せずとも自分でその情報を得て、次のステップへ進むことができるようになることで、自主的な行動の手助けとなり、意欲的に学校生活を送れるようになると考えた。

目標

自分が知りたいと感じたことや求められたことについてネット検索を行い、必要な情報を自分で取得することができる

実施期間

2016年5月から2017年2月

・実施者

甲斐大騎

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

- ・知りたいと思うことがあってもすぐに「わからない」「めんどくさい」と言って諦める。
- ・調べ学習の際には、パンフレットやネット検索を活用すれば必要な情報は得られることは理解できているが、どの部分に必要なことが載っているのかが分からなかったり、適切な検索結果が得られなかったりすることがほとんどである。
- ・何を調べれば良いかが分かっているとき(大分県で美味しいハンバーグ屋さんはどこ?)は検索の窓にそのまま打ち込むことはできるが、自分が調べたいことがあるときは、具体的に打ち込むキーワードやセンテンスが想起できずに固まる。

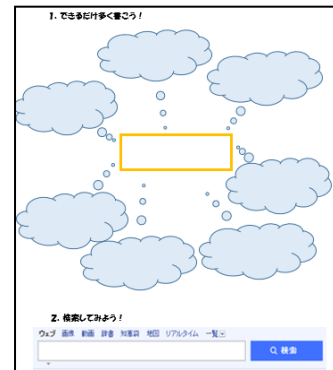
活動の具体的内容

① ネット検索におけるキーワード選び(5月～7月)

検索の際のキーワード選びのポイント(見た目、におい、大きさ、用途など、カテゴリー化ごとの特徴を捉える)を、プリントを使って学習した。

頭の中にあるイメージを言語化していった。

(書き出した周辺情報で、実際に検索をかけ、正しい答えにたどり着くかも試した)



学習プリント

② 検索結果を使いこなす(6月～2月)

日常会話や、学習の中でネット検索をする機会を20回程度設けた。

キーワード選びと平行していくことで検索の質の向上も求めた。

(「臼杵の有名なふぐ屋さんはどこ?」から「臼杵 有名 ふぐ料理店」のようにキーワード化していく)

検索に慣れる段階として

最初は、

「誰かのために」検索する場面を多く仕組んだ。

→何を検索すれば良いかが明確である、感謝してもらえる

次第に、

「自分のために」検索する場面を設定し、機会を保証した。

→検索の方法とコツに慣れているため、自分の中にある気持ちを

表出しやすくなる。望んだ情報を手に入れることで自信につながる。

※検索には、safariを使用した。



誰かのために教師と一緒に調べる

誰かのために自分で調べる

自分が知りたいことを自分で調べる

③ ネットを使用する際の注意点(7月～11月)

アプリ:ネット社会の歩き方を使って、ネット社会にひそむ危険や注意事項について、また情報の取捨選択について学習するようにした。



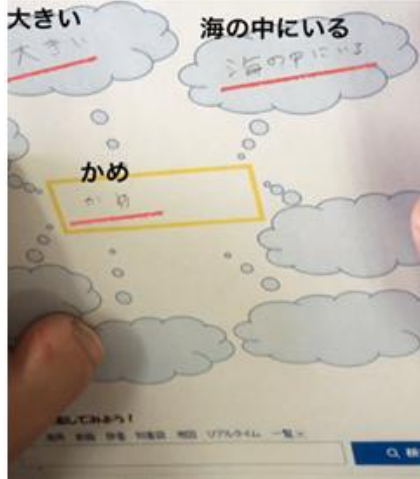
対象児の事後の変化

① ネット検索におけるキーワード選び

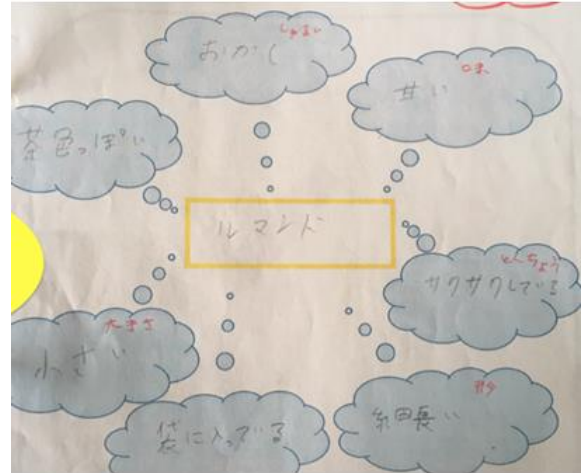
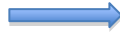
最初は、1分間に2～3ワード程度しか選び出すことができなかった。

その背景には、何を書けばいいのかの視点が分からないことがあった。そのときは、〈色×形×におい×特徴×味×種類〉〈大きさ〉など、キーワードを選ぶ際のポイントを挙げながら、教師と一緒に確認するようにした。

次第に、手が止まった時にも、そのポイントを思い出してその観点からキーワードを書き出すことができるようになった。



〈取り組み当初(5月前半)〉



〈取り組み終盤(6月後半)〉

また、書き出した後に実際にキーワード検索をかけてみるように促した。適切なキーワードであれば、検索結果に最初の単語が含まれた情報が出てくるため、答え合わせのように意欲的に取り組んでいた。

※ネット検索のメリットである「チャンスは一度ではない」ことが対象生徒には適していたと感じる。キーワードをひとつ入れて正解にたどり着かなくても、ひとつずつ足していけば多くの場合でいつか求めていた答えにたどり着くことを体感できたことが、自信を持って取り組めるひとつの要因になったと考える。

② 検索結果を使いこなす

キーワード選びにも慣れ、ネット検索にも抵抗感がなくなってきたことから日常生活の中での活用へうつった。(6月～) 3つの段階を設けて、最終的に自分の力で日常的に活用できるようにした。

第一段階

誰かのために教師と一緒に調べる

日常会話の中で分からないことを調べてもらい、その結果を伝えに行くことで、他人から「ありがとう」といってもらえる経験を通して、検索に慣れるとともに、意欲的に取り組む姿も見られるようになった。

好きな言葉はなんですか？
かわいく ありがとう 目かき
「誰かの役に立ちたい」という気持ちが
原動力となり、積極的に取り組んだ。



検索したことを相手に伝える様子

実際の取り組み

②検索結果 20回ほど続けた

- 「白杵の美味しいふぐ屋さん」
(他学部の教師との会話) 言われたまま
- 「インドカレー」⇒「インドカレーって何？」
⇒「インドカレー」「特徴」
(休み時間にて) 教師と一緒に
- 「健康観察」⇒「健康観察」「必要」
⇒「健康観察」「必要？」
(生単：係の仕事にて) 自分で
- 「オリンピック」「2016」「日程」
(休み時間にて) 予測変換

検索ワードに、変化が出始めた

(①の取組以降)

第二段階

誰かのために自分で調べる

取り組み当初は1分以内に検索を諦めることがほとんどだったが、10分以上かけて欲しい情報にたどり着くまで検索し続けた。

〈生活単元学習で1泊2日のキャンプにいった際〉

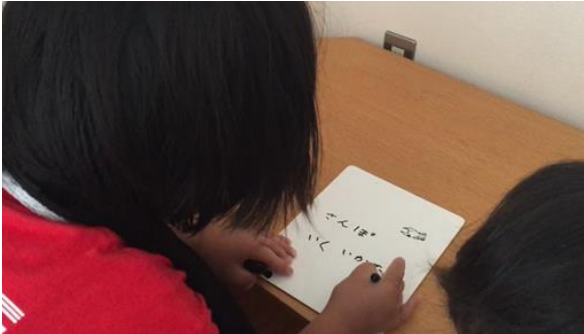
友だちに浜辺ですると楽しい遊びを検索し事前に提案した。

普段、自信がないときには教師の顔を伺いながら友だちに話をするのだが、このときは一度も教師のほうは見ることなく提案し続けた。そこには、自分が調べて得た情報で、みんなが楽しめると思って選び抜いた情報だったことが背景



「自由時間」「何して遊ぶ」

にはあると感じた。当日になり、「浜辺にはいかない」と言い出した友だちがいたが、その生徒の担当教師が行っているホワイトボードを用いた支援方法をまねしながら、必死に浜辺に誘う姿が見られた。



自分で調べた遊びに「みんな誘いたい！」と思う気持ちから出た行動



念願だった、友だちとのジャンプ写真を撮った

夏休み中は、教師とGメールを行い、検索の質を上げる取り組みを続けた。(検索と情報選択に慣れるため)



T: 24時間テレビってどんな願いがこめられているのかな？

S: 被災者援助(打ち間違えにより、被害者となっている)です

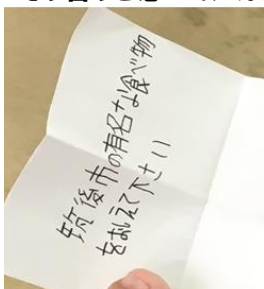
T: 調べたページはありますか？

S: 「24時間テレビ 願い」です。(スクリーンショット付き)

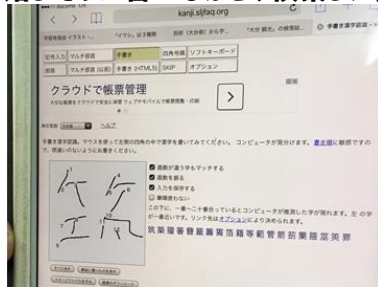
一日、ひとつの質問に答えた

〈友だちからの質問に返答〉

「筑後市の有名な食べ物」が知りたい旨を紙に書いて尋ねてきたが、「筑後」の読み方が分からなかった。すると、「分からない漢字」「書き方」と検索し、手書き入力で読みが分かるサイトを探しだして、その後自分なりに筑後市の有名な食べ物を選んで友だちに伝えに行った。伝えにいったときも、口頭で伝えたあとに、「〇〇ってなに？」と聞き返されると、「そう言うと思ってたんよー！」と嬉しそうに言いながら、検索した画面をスクリーンショットしたものを出して説明した。



友だちからのメモ



探し出した手書き入力サイト



休憩時間に黙々と検索する姿

第三段階

自分が知りたいことを自分で調べる

環境設定として、対象生徒が思い立ったときにすぐに検索できるように、必要であれば iPad をどの授業でも活用してよいことを教師間で確認した。

〈ある日の美術(9月)〉

教師が提示したイラストではなく、「自分で選んだものを書きたい」と言い、イラストを探して描き写していた。以前に比べて画用紙いっぱいイラストを描き上げた。また、友だちが折り紙を貼っているのに気づき、挑戦したが、途中で折り

方が分からなくなった。すると、「アジサイ」「折り方」と検索し、作業を続けた。(教師の介入なし)



自分が書きたいと思う絵で、書けそうな絵を探していた



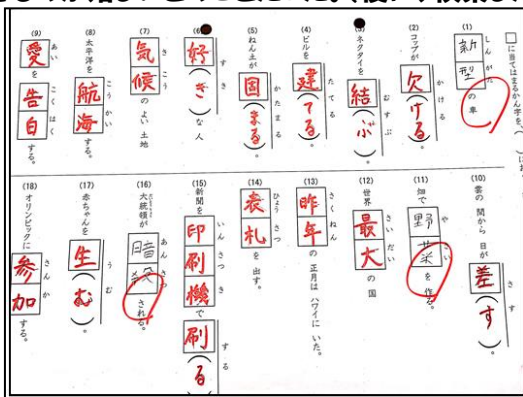
「アジサイ」「折り方」と検索し、続きを折った



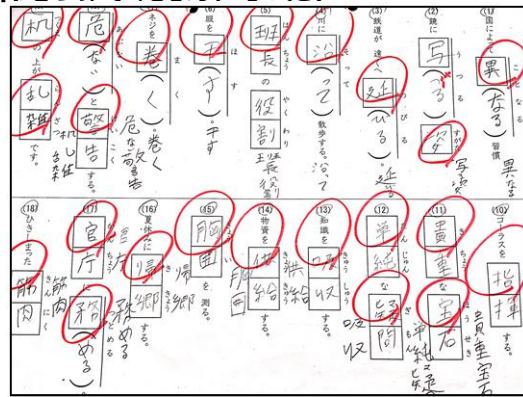
見本通りに様々な色を使って画用紙いっぱいに書き上げた

〈宿題の変化(10月)〉

分からなかった部分を自分で調べて書き込んでくるようになった。宿題に丸がつくことや、空欄を自分で埋めることができるのが嬉しいとのことだった。(後に、検索した問題には印をつけてくるようになった)



分かる部分(今回では3問)のみ記入して他の部分は空欄で提出していた(7月)



分からなかった漢字を調べて埋めた(10月)

〈給食の献立(11月)〉

クックパッドを見て、給食の献立を考えて提案した。栄養バランスや、主菜・副菜・主食・汁物のバランスを調べていた。



友だちも気にしていた



12月の献立に採用された

〈あこがれの先輩(12月)〉

高等部2年の先輩が漢字検定を受検していることを聞く。休みの日に、母に「漢検のテキストが欲しい」といい、書店まで連れて行ってもらう。月曜に登校してきた際には、iPadに漢検5級のアプリが入っており、宿題とは別に、テキストやアプリに取り組んだ。年末に8級と7級を申し込み、2月5日に受験した。



※休み時間や空いた時間ができると、そのたびに自分の机で漢字アプリに取り組んだ。(教師の介入なし)



5級を希望したが次回以降に挑戦することにして、今回は7級・8級を併願した



③ネットを使用する際の注意点

アプリに沿って進めた。



授業後の感想では、「ニュースでも『ワンクリック詐欺』や『有害なサイト』についてやっていたので自分は巻き込まれないようにしたいです。」「(検索結果の)一番上にあるページだけでなく2・3つのページを見てから決めます。」と述べた。



テレビに接続して学習

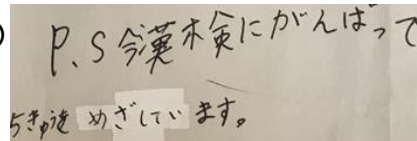
【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

- ①「ネット検索」のメリットである「即時性」と「多くの場合、正解にたどり着く」は、自信がなかったこの子にとって「それで大丈夫！」と背中を押してくれる要因となり、困難に直面しても心に余裕をもって行動できるものになった
- ②ICTを活用することによって足りない部分や困難になっていた部分を補うことができ、本来持っている力(まだ発揮することはできていない力)が発揮できるようになった
- ③「自分でできる」という実感が自信へつながり、現在の自主的・意欲的な様子へ表れている

エビデンス

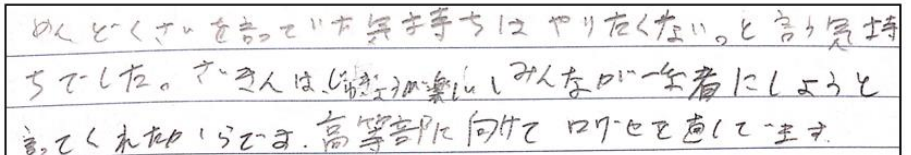
地域の中学校との交流学习で、「漢検を受けるんで！」と嬉しそうに話していた。その後の、お礼の手紙にも同様の内容を記述していたが、これは同世代の友だちに対して誇らしい気持ちがあったのだと考える。(以前は、交流生との会話は教師を介してのコミュニケーションが多かった)



手紙の最後に付け加えた

4月時は「めんどくさい」が口癖で、ほぼ毎時間(一日に10回程度)言っていた。

9月には一日一回聞く程度になり、11月以降はほとんど聞いていない。本人にもこのことを確認してみると、やりたくないという気持ちから変化があったと教えてくれた。ここには、失敗して恥ずかしい思いや嫌な思いをしたり、自分が傷ついたりしないように「めんどくさい」という言葉を使って、不安に感じている自分を守っていた姿から変化が見え始めていると感じている。自信を持って行動できている自分を自覚し、堂々と行動に移っても大丈夫と感じている。



以前の自分と、今の自分の変化への気づき 高等部への意欲も見られた

分からないことがあったとき、4月時はそのまま黙り込み時間が過ぎるのを待っていたが、現在では検索して黙々と進めることが多くなった。

また既知の発問に対して誰よりもはやく挙手をする場面が見られるようになった。



背中を押されても
発表できず



だれよりもはやく
挙手する場面も

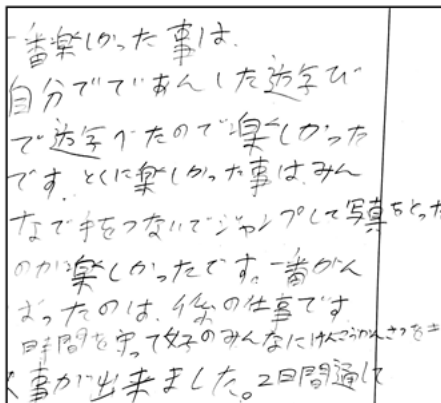
その他エピソード

〈情報を活用しよう〉

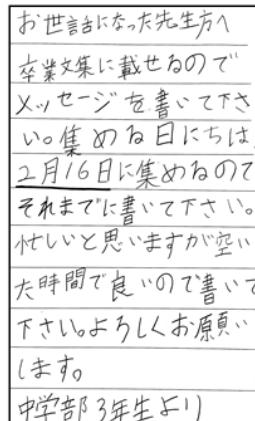
お母さんのハンドバックに弟がガムをつけてしまい、べとべとになってしまったとのこと。そのバックを見てげんがりしているお母さんを見て、ぱっとネットで検索を行い「ハンドクリームでガムは取れるよ。」と言って、ハンドクリームを取りこいて自ら取ってくれたとのこと。(2学期末PTAのときに、お母さんが驚いたことと言いながら、非常に嬉しそう表情を浮かべながら話をしてくれました。)

〈やりたいことの実現のために〉

漢検を受験すると決めてから、学習に対して非常に意欲的に取り組んでいる。漢検では、教員以外の人の採点のため、丁寧な字で書くことに意識が向いた。一年前の字と現在では、変化も表れている。



1 学期



2 学期



1月に開かれた大分県
書写書道展では、毛筆
で金賞を受賞した

〈頭の中にあるイメージを再現したい！〉

美術でも、以前の「書かされている」感覚から、「自分の書きたいものを書けている」ことで作品にこの子らしさが表現できるようになった。ステンシルローラー版画の製作過程では、自分からジャニーズアイドルの写真を検索し、輪郭を模写してデザインを作り上げた。



好きなジャニーズアイドル
を探して輪郭を型どりした



推奨受賞を聞いて両手を挙げて
喜んだ

〈行けるよ！行ってみたい！〉

2月初旬に「お母さん！ライブに行きたい！」と申し出があったとのこと。聞いてみると、今年の夏に福岡で開催されるKis-My-Ft2のライブに一人で行ってみたいという内容だった。確かに会場であるマリンメッセ福岡は何度か行ったことがある場所ではあるが、そこまで行き着けるとは母も思わず、「たどりつかんかったらどうするん。ライブも見られないのよ。」と答えた。すると、「大丈夫！これがあれば行けるし！」「わからんかったら調べるか、どうしてもものときは人に聞けばいいもん！」と反論してきたとのこと。

彼女にとって、iPadは困ったときに助けてくれる存在になっていると感じたエピソードであったと同時に、これまで「理想」として話していたことが彼女の中で「実現可能」と感じるものへと変化していると感じた瞬間でもあった。

今回の、「検索する力」が直接これらの結果につながったわけではないが、人に頼らず自分を表現できるようになった背景には、分からないことがあっても自分で解決できるという自信がついたことは挙げられると考えている。自信がついてきたことで、「できている自分」を実感でき、様々なことに挑戦したいという気持ちが高まっている。

